

若者の情熱が世界を変える
 ——ブラストビート創業者・スティーブソン氏

国内外の社会起業家が事業プレゼンするイベント「社会起業支援サミット2010」(10月3日大隈講堂)に、世界的な社会起業家ロバート・スティーブソン氏がアイルランドから来日。社会起業を志す若者へ贈る提言とは。(聞き手・今一生)

ロバート・スティーブソン プロデューサーとしてU2をデビューさせるなど音楽業界で25年のキャリアを持つ。2003年「ブラストビート」創業。2006年、アイルランド社会起業家賞を受賞

——ロバートさんは2003年、非行などに走りかねない若者に同世代のバンドを発掘させ、ライブイベントの運営で自己実現の機会を与える「ブラストビート」を創業しましたが、どんな手応えがありましたか。
スティーブソン(以下、S) ブラストビートでは高校生などがチームを作って「ミニ音楽会社」を立ち上げ、ライブの企画から広報、ブックキング、経理などすべてをプロデュースしますから、ビジネスの仕組みやチームワークなどが学べます。

イベント利益の25%以上を自分たちが選んだNPOへ寄付するので、社会貢献の喜びも体感できます。情熱を捧げられる対象を通して、事業の責任感が学べるのです。

これまでアイルランド、イギリス、アメリカ、南アフリカへ活動の舞台を広げてきましたが、2009年には日本でも始まりました(※本誌20号参照)。日本支部の若者たちは大変熱心で、とても感謝しています。

——どんな事業も創業時には苦労しますが、社会起業で一番大切なのは何ですか。

S 世の中に貢献する情熱です。それによってみんなが恩恵を受け、社会が変わる。次に明確なビジネスプランを持つこと。しっかりと計画もついであります。ソニーでも何でもそうです。はじめは小さい集まりです。なので、身近な家族や友人から始めればいいのです。

ブラストビートの活動は、最初から資金を準備する必要はありません。情熱↓ビジネスプラン↓最初のテス

身近な地域で社会起業を始めよう
 ——スティーブソン



大振りなジェスチャーを交えて熱弁するスティーブソン氏。若者相手でも情熱をぶつけてくる様子は圧巻

ト用の資金↓売り上げの順で動いてきました。

プロジェクトを動かすためのテスト資金は、3カ月で集めました。99の企業はスポンサーになるのを断りました。でも、アイルランドで一番大きな銀行がYESと言いました。次はコココーラ。そうやって資金が集まり始めました。

——ロバートさんも僕からの英文メールに答えて、手弁当でアイルランドから駆けつけてくれました。

S 私たちは既に情報が瞬時に世界につながる面白い時代に生きています。リンクトインというSNSを使っている方は、簡単に私とコンタクト



社会起業支援サミットではボランティアスタッフが同時通訳を担当。スティーブソン氏が「この中で起業したい人は？」と尋ねると3割弱が挙手



ブラストビートの活動をドキュメント映像で紹介するスティーブソン氏

できます。ソーシャルメディアによって変化が起きているスピードが上がり、この5年でグローバルなアイデアの交換が起こるでしょう。既存システムは変革を迫られています。

若者問題は深刻で、旧来の社会システムは対応できません。若者には「将来を作るのは自分」という意識が不可欠で、そのような意識を持たせる教育が、若者問題を解決するカギになります。教育者がやることは、どうやって若者とながら、意欲を引き出すか。大事なものは情熱と、音楽、

ソーシャルメディア、ビジネス、社会に貢献する意識です。

だから、古いシステムの中での発想に収まらず、創造的になりましょう。最初は失敗してもいい。心配しないでください。創造的思考とは枠を超えられること。日本という枠も超えて発想しましょう。

——自分ができないことでも、できる人に任せればいいですよ。できる人を自ら探し、交渉し、仲良くなつてパートナーとなるのは、ネット世代は上手かもしれません。

S 政府などの公共セクターは動きが遅いので忍耐が必要。ブラストビートはイギリスの上院議員で事業活動を説明しました。政府も私たちの解決法が必要なんです。また、ネットやブログなどでアイデアを発信する広報活動も大事です。

——社会問題とは自分が困っている他の誰かも困っていることで、身近な問題の解決に取り組み始めることがソーシャルビジネスだと気付いた若者が、最近日本でも増えていきます。**S** 自分が暮らす地域に目を向ける

ことは重要です。最初から諦めず、アクションを起こしましょう。一人一人の踏み出しで世界は変わります。身近な地域でチェンジメーカーになれる方がいいのです。

——ロバートさんがデビューさせたU2のポノは、デビュー前からソーシャルな志を持っていましたか。

S もちろん。「可能性」が2010年のキーワードです。成功できるかどうかは、みなさん次第。起業に失敗はつきものですが、100分の1の確率であっても、情熱を持ってあきらめず取り組み続けることが、やがて人を動かすのです。がんばってください。ロックンロール!



講演後、質問とサインを求めて駆け寄ってきた若者に、スティーブソン氏は長旅の疲れもよそに気さくに応じていた